

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 26 日現在

機関番号：82628

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2020

課題番号：16H03709

研究課題名(和文)性的指向と性自認の人口学 - 日本における研究基盤の構築

研究課題名(英文)Demography of Sexual Orientation and Gender Identity: Building a Foundation for Research in Japan

研究代表者

釜野 さおり (Kamano, Saori)

国立社会保障・人口問題研究所・人口動向研究部・第2室長

研究者番号：20270415

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,100,000円

研究成果の概要(和文)：性的指向と性自認に関しての学術的に信頼性のある情報が必要だが、日本では量的データに基づく知見の蓄積が乏しい。本研究では調査で性的指向と性自認のあり方(シスジェンダーかトランスジェンダーか)を捉える設問をフォーカス・グループ等を経て考案し、SOGI設問と、働き方、経済状況、心身の健康、自殺念慮、ジェンダー、家族、SOGI施策についての意識、いじめ被害や見聞き経験等を含む調査票を用いて、2019年に大阪市の住基台帳から無作為抽出した15000人を対象に郵送調査を実施し、4285人から回答を得た。学歴、収入、心身の健康等のSOGI別分析の結果を発表し、無作為抽出調査にSOGIを含める意義を示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで性的指向と性自認のあり方(SOGI)を検討してこなかった日本の人口学領域にSOGIの軸を導入し、SOGIを人口学的に研究するために、性的マイノリティだけではなく、誰もが対象になる可能性のある調査で用いることのできる、性的指向と性自認のあり方をたずねる設問を考案した。日本においてはその必要性さえ認識されていなかった。性的マイノリティ当事者と非当事者を含む一般人口を対象とした無作為抽出調査を実施することができた。結果を一般化できるデータに基づいてSOGI別の人口割合を提示し、心理的ストレスや自殺念慮経験率は性的マイノリティの方が有意に高いことを示したことは、学術的にも社会的意義がある。

研究成果の概要(英文)：Despite the need for reliable information on sexual orientation and gender identity, there is a lack of knowledge based on quantitative data in Japan. This research developed questions to capture sexual orientation and gender identity (cisgender or transgender) through focus groups and other methods. Using a questionnaire that includes SOGI questions and questions on employment status, economic status, mental and physical health, suicidal ideation, attitudes toward gender, family, and SOGI-related policies, and experience of being bullied, a mail survey was administered to 15,000 randomly selected residents of Osaka City in 2019. 4,285 responses were collected, and results of analysis by SOGI comparison of educational attainment, income, and physical and mental health were presented in academic conferences and papers. The research indicated the significance of including SOGI in random sampling surveys.

研究分野：社会学、ジェンダー・セクシュアリティ、人口学

キーワード：SOGI 社会調査 無作為抽出調査 性的マイノリティ LGTB 性別・性自認の設問 性的指向の設問
大阪市

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究を企画した2015年時点においては、性的指向におけるマイノリティとされている、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアルと、性自認のあり方におけるマイノリティとされているトランスジェンダーが、「LGBT」と括られて取り上げられることが増えていることから、性的指向と性自認のあり方に関して、学術的な見地から信頼性のある情報が求められるようになっていた。日本においては、特に人口学的な量的データに基づく知見が蓄積されておらず、インターネット調査会社にモニターとして登録された人たちのみを対象としたモニター型ウェブ調査の結果が、「日本人口」に占める性的マイノリティの「割合」であるといった誤った理解が社会全体に広まりつつあった。

英語圏諸国を中心とする諸外国においては、性的マイノリティを量的調査で捉える試みおよびその方法論が蓄積されている。性的マイノリティの個人や同性カップルを調査で特定した上で、その人口学的特徴を記述したり、性的マイノリティ以外や同性カップル以外との差異を統計的に分析したりする研究も進められている。

日本においては、性的マイノリティ当事者を主な対象とした量的調査はなされていたが、非当事者も含めた調査で性的指向や性自認を捉えるものはほぼ皆無であった。数少ない研究として、[Hidaka et al. \(2008\)](#) による自殺未遂経験や[平森 \(2015\)](#) による収入に関する研究がある。これらの研究は SOGI による比較分析を行っており、また政策的にも有用であるが、無作為抽出に基づいた調査でないため、その結果を一般化できないという弱点がある。

こうした背景の中、日本において性的指向や性自認の人口学的研究を進めるために、性的マイノリティ当事者と非当事者の統計的比較が可能で、かつ結果を一般化できるデータを収集するための体制を作ることが不可欠であると考え、2016年4月から本研究を開始した。

2. 研究の目的

本研究では、これまで性的指向や性自認のあり方（以下、SOGI）に目を向けてこなかった日本の人口学領域において、その視点を含める意義と研究の方向性を探り、日本において SOGI 別に人口を捉え、SOGI による生活実態の統計的比較分析を可能とする調査のあり方を検討すること、そして、その過程で、人口学領域と性的マイノリティの研究との融合を図り、人口学的視点から SOGI に関する研究を行うための基盤を築くことを目指す。具体的な目的は、次のとおり。

- (1) 国内の公的調査や学術的調査において、回答者の SOGI を捉える設問を導入する。
- (2) 日本の文脈において、各種の調査票調査で用いることのできる、回答者の SOGI をたずねる設問を考案する。
- (3) 性的指向別、性自認のあり方別の人口割合を推定し、経済状況や健康状態等、生活状況全般と SOGI との関連性の分析を可能とするモデル調査票を設計する。
- (4) SOGI の設問を含めた、一般人口向けの生活実態調査を自治体や全国において実施する可能性およびその方法について、情報収集を行う。
- (5) モデル調査票を実際の調査で使用して収集したデータをもとに、SOGI 別の集計結果を提示する。

3. 研究の方法

- (1) 国立社会保障・人口問題研究所が実施する社会保障・人口問題基本調査、JGSS（日本型総合的社会調査）日本家族社会学会による NFRJ（全国家族調査）において、SOGI に関する意識をたずねる設問や回答者の SOGI をたずねる設問を含めるべく、働きかけた。
- (2) 日本の一般人口を対象とした調査票調査において、性的指向および性自認のあり方を捉える設問候補を含む調査票を作成し、2017年10月～12月に試験的調査を行なった。諸外国の研究や検討事例を熟読し、日本において主に当事者対象の調査で用いられた設問と併せて検討した。性的マイノリティと、それ以外の人々を対象とし、フォーカス・グループ・ディスカッション（FGD）（計9回、各回4～5名）とメールを介したパイロット調査（20件収集）を行った。

FGD：性的マイノリティ当事者についてはバイセクシュアル団体のミーティングやプライドパレード「関西レインボーフェスタ！」で参加者を募集し、非当事者については一般社団法人に委託して募集した。いくつかの異なるバージョンの SOGI 設問を作成し、参加者からフィードバックを求めた。SOGI 設問については、答えやすさやワーディングについて、9つの事項をたずねた。加えて、調査モード、調査票で SOGI 設問を配置する位置、説明文などについての考えについても、たずねた。SOGI に基づくいじめの見聞きや自分自身が受けたことがあるかの経験に関する設問など、回答者の SOGI 以外の設問についてもいくつか質問を行った。

パイロット調査においても、FGD で使用されたサンプル設問とディスカッション時にたずねられた質問を用いて、本人が回答した複数のバージョンの SOGI 設問にコメントの記入を依頼した。

- (3) モデル調査票の作成にあたっては、諸外国の先行研究や国内における質的調査から SOGI と深い関連性があると思われる領域を挙げ、定評ある学術的調査や国・自治体の調査をサーベイし、設問を選定した。社会経済的格差および心身の健康の格差に関する研究の土台につながる設問を優先的に取り入れた。

(4) 一般人口対象の SOGI 設問を含む調査の実施の検討の成果（方法、委託先、協力自治体）：本科研の予算内で、一般人口を対象とした無作為抽出調査の実施が可能か、できない場合、他にはどのような調査方法があるかを模索した。各社からの見積額から、予算内で、SOGI 十分なサンプルサイズの無作為抽出調査を実施するのは、難しいことが明らかになった。無作為抽出調査断念を覚悟したものの、大阪市において調査を実施できる可能性が浮上し、大阪市が住民基本台帳から対象者を無作為抽出することに協力する形で「大阪市民の働き方と暮らしの多様性と共生にかんするアンケート」（大阪市民調査）を実施できた。

(5) 大阪市民調査の実施とその成果

1) 調査の実施：調査期間は 2019 年 1 月 16 日（発送）から 1 月 28 日までとし、督促ハガキで期日を 2 月 4 日に延長し、3 月 7 日までに到着した回答を有効とした。まず、大阪市が同市の住民基本台帳から 18 歳から 59 歳までの 15,000 人（2018 年 10 月 1 日時点の住民基本台帳に基づく）を無作為抽出し、15,000 人の宛名ラベルを印刷し、市の担当者が宛名ラベルを貼付した。対象者向けに研究の背景や意義、想定される疑問に対する回答等を掲載したホームページを作成した（<http://acv.osaka-chosa.jp/>）。その結果、4,294 人が郵送またはインターネットで回答した。有効回収数は 4,285 票で、有効回収率は 28.6% であった。回答者の出生時の性別は女性が 58.7%、男性が 40.9%、無回答が 0.3% であった。年齢層は、20 代以下が 15.8%、30 代が 23.8%、40 代が 28.7%、50 代が 29.7%、年齢無回答が 1.9% であった。

2) 大阪市民調査結果の公表：SOGI 別の人口割合および大阪市の施策に対する意識の集計結果を速報としてリリースし、記者発表を行った。出生時の性別や年齢階級別に全設問の集計結果報告書を公表した（[https://www.ipss.go.jp/projects/j/SOGI/*20191108 大阪市民調査報告書（修正 2）.pdf](https://www.ipss.go.jp/projects/j/SOGI/*20191108%20大阪市民調査報告書（修正2）.pdf)）。一部の結果は <https://osaka-chosa.jp/> でも紹介している。

性自認のあり方についての結果は、図 2 に示すとおりである。問 44 で回答された出生時の戸籍・出生届の性別（出生時性別）に対し、問 45 で現在自分が捉えている性別と異なる答え、今の認識にもっとも近い性別が、問 44 の回答と異なる人を、「トランスジェンダー」とした。その数は、出生時性別が男性では 12 人、出生時性別が女性では 20 人であった。



図 2:大阪市民調査における出生時の男女別、今の認識に近い性別の分布

性的指向アイデンティティについては、図 3 に示すとおり「異性愛者」と回答した人の割合が 83.2% であった。「ゲイ・レズビアン・同性愛者」は 0.7%、「バイセクシュアル・両性愛者」は 1.4%（計 2.1%）、「アセクシュアル・無性愛者」は 0.8% であった。また、「決めたくない・決めていない」は 5.2%、「質問の意味がわからない」を選んだ人は 7.2% であった。

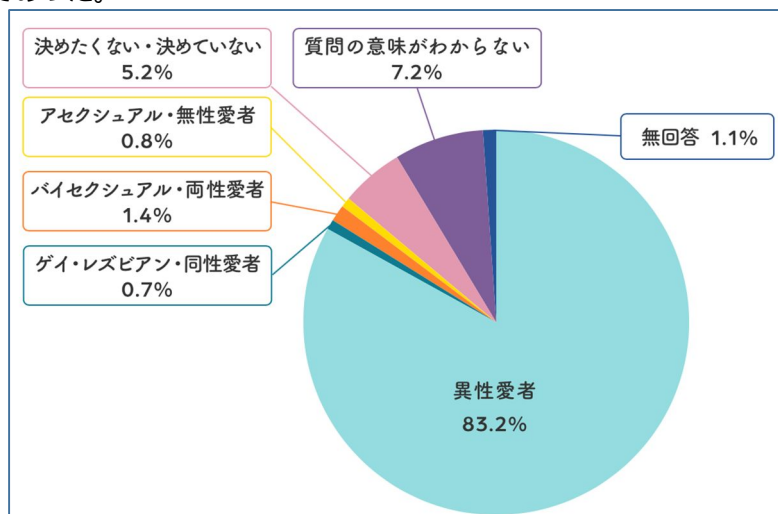


図 3：大阪市民調査における性的指向アイデンティティの回答分布

- 3) 大阪市民調査のデータの分析：社会調査で SOGI を捉えるための設問の考察、SOGI 別にみた社会経済的地位に関する分析結果、SOGI 別にみたメンタルヘルスや自殺企図・自殺未遂経験の分析結果、女性同性カップルの家族形成支援ニーズに関する分析結果を学会で発表した。自殺企図・自殺未遂経験を、SOGI 別に示した結果をみると、シスジェンダー・異性愛者に比べ、トランスジェンダーも（図 4）、レズビアン・ゲイ・バイセクシュアルも（図 5）、全ての項目で経験割合が有意に高いことがわかった。

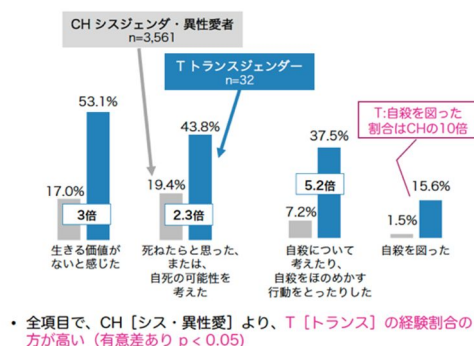


図 4：シスジェンダー・異性愛者とトランスジェンダーの自殺企図・自殺未遂経験割合（釜野ほか, 2020）

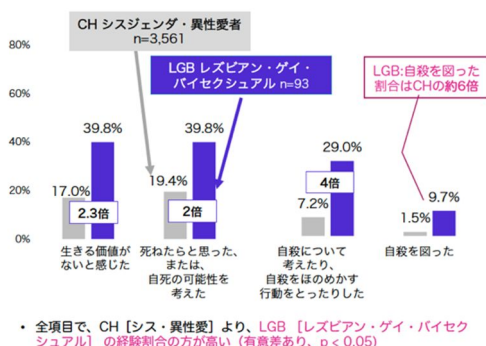


図 5：シスジェンダー・異性愛者とレズビアン・バイセクシュアルの自殺企図・自殺未遂経験割合

社会調査で性的指向・性自認のあり方をたずねる方法についての考察（平森・釜野）、郵送・ウェブ回答の回答率・回答者属性・項目無回答率の比較（千年）、郵送・ウェブ回答の回答分布の比較（千年）、大阪市における性的マイノリティの空間分布（山内）、アロマンティック/アセクシュアル・スペクトラムの人口学的多様性（三宅・平森）に関する論文を『人口問題研究』で発表した。一般市民に向けたオンライン報告会を開催し、自治体調査の動向、SOGI の聞き方・答え方、SOGI と学校 - いじめの悪影響、性的マイノリティの空間分布、SOGI とお金、レズビアン・バイセクシュアル女性の家族形成ニーズなどの成果を報告した。

2022 年 3 月には、研究協力者として尽力してきた平森大規（2022 年 6 月現在、法政大学グローバル教養学部助教）が、大阪市民調査のデータを駆使した博士論文 [HIRAMORI Daiki, 2022, Sexuality Stratification in Contemporary Japan: A Study in Sociology（現代日本におけるセクシュアリティ階層 社会学的研究）, PhD dissertation, Department of Sociology, University of Washington. <http://hdl.handle.net/1773/48558>] をまとめた。

4) 追加の試験的調査とその成果

大阪市民調査で用いた SOGI を捉える設問を精査するため、インターネット調査会社にモニタとして登録しているモニタを対象に「性的指向・性自認に関する設問の改善に向けた試験的調査」を実施した。特に、性的指向アイデンティティの回答で割合が 5.2% と高めであった「決めたくない・決めていない」の回答の意味を検討し、分析した。その結果を報告書で公開し（https://www.ipss.go.jp/projects/j/SOGI/20200701_Report_on_Undecided.pdf）、2020 年 10 月の日本社会学会、2021 年 5 月のアメリカ人口学会で報告した。結果は一般化できないものの、この調査では「決めたくない・決めていない」を選んだ人の 22.0% から 54.1% が、異性愛者である可能性が示された。

5) まとめ

本研究の貢献は、当初日本では必要性さえ認識されていなかった、誰もが対象者になりうる無作為抽出において性的指向および性自認のあり方をたずねる問いを含めた調査を実現できたことである。大阪市民調査によって捉えた性的マイノリティの数は少数であるため、その分析結果には限界があるが、この試みによって、SOGI を一般人口対象の調査に含めることで、どのようなことが可能になるのかを示すことができたと考える。この研究が、今後、国、自治体、研究グループ等による既存の調査に SOGI を捉える設問を含めること、そして規模の大きい無作為抽出による調査が多方面で行われるきっかけになれば幸いである（埼玉県では 2020 年に本調査をベースにした調査を実施した）。こうしたデータに基づく SOGI による格差の統計的検証が、性的マイノリティが生きやすくなるような施策につながることを強く願っている。

最後に、本研究において最も必要であると認識しながらも、予算の制約から断念しつつあった、一般人口を対象にした SOGI をたずねる設問と通常の調査に含まれる設問を含めた無作為抽出調査を実現させていただいた、大阪市、そして協力していただいた大阪市民の方々に礼を申し上げる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計42件（うち査読付論文 15件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 22件）

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 Khor Diana, and KAMANO Saori | 4. 巻 30 |
| 2. 論文標題 Negotiating Same-sex Partnership in a 'Tolerant' State | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 Journal of Gender Studies | 6. 最初と最後の頁 512-524 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/09589236.2021.1929099 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 該当する |
| 1. 著者名 釜野さおり | 4. 巻 105 |
| 2. 論文標題 性的マイノリティをめぐる人権の観点から量的調査を読み解く 国勢調査を例として | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 GLOBE | 6. 最初と最後の頁 16-17 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |
| 1. 著者名 藤井ひろみ・布施香奈・釜野さおり | 4. 巻 62 |
| 2. 論文標題 『大阪市民の働き方と暮らしの多様性と共生にかんするアンケート』からみたシスジェンダーのレズビアン・バイセクシュアル女性における家族形成ニーズ | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 母性衛生 | 6. 最初と最後の頁 521-531 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |
| 1. 著者名 山内昌和 | 4. 巻 77 |
| 2. 論文標題 大阪市における性的マイノリティの空間分布 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 人口問題研究 | 6. 最初と最後の頁 188-205 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.50870/00000251 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 三宅 大二郎、平森 大規 | 4. 巻 77 |
| 2. 論文標題 日本におけるアロマンティック/アセクシュアル・スペクトラムの人口学的多様性 「Aro/Ace調査2020」の分析結果から | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 人口問題研究 | 6. 最初と最後の頁 206-232 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.50870/00000252 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 千年よしみ | 4. 巻 77 |
| 2. 論文標題 ミックスモード調査における郵送・ウェブ回答の回答分布の比較ー住民基本台帳からの無作為抽出によるSOGIをテーマとした調査からー | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 人口問題研究 | 6. 最初と最後の頁 1-20 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 石田仁 | 4. 巻 (10月26日配信) |
| 2. 論文標題 安倍政権が行った3つの性的マイノリティ政策と、行わなかった数々のこと | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 wezzy | 6. 最初と最後の頁 web記事 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 釜野さおり | 4. 巻 76 |
| 2. 論文標題 特集に寄せて(性的指向と性自認の人口学 日本における研究基盤の構築) | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 人口問題研究 | 6. 最初と最後の頁 439-442 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 千年よしみ | 4. 巻 76 |
| 2. 論文標題 ミックスモード調査における郵送・ウェブ回答の回答率・回答者属性・項目無回答率の比較ー住民基本台帳からの無作為抽出によるSOGIをテーマとした調査からー | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 人口問題研究 | 6. 最初と最後の頁 467-487 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 HIRAMORI, Daiki and Saori KAMANO | 4. 巻 76 |
| 2. 論文標題 Asking about Sexual Orientation and Gender Identity in Social Surveys in Japan: Findings from the Osaka City Residents' Survey and Related Preparatory Studies | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 Journal of Population Problems | 6. 最初と最後の頁 443-466 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 石田仁 | 4. 巻 491 |
| 2. 論文標題 学校現場と性的マイノリティ：教職員にできること | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 日本教育 | 6. 最初と最後の頁 16-19 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 石田仁 | 4. 巻 93 |
| 2. 論文標題 性的マイノリティの安全な出会い：SNS以前・以後の歴史を振り返る | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 季刊セクシュアリティ | 6. 最初と最後の頁 60-69 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 石田仁・沢部ひとみ・谷口洋幸・三橋順子・山縣真矢 | 4. 巻 4月 |
| 2. 論文標題 日本のLGBT 30年史 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 Beyond | 6. 最初と最後の頁 11-25 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 岩本健良 | 4. 巻 12 |
| 2. 論文標題 学校教科書での性的マイノリティの取り扱いをめぐる現状と課題 (性別違和を持つ子どもにどう対処するか (3)) | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 GID(性同一性障害)学会雑誌 | 6. 最初と最後の頁 229-233 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 岩本健良・高橋未樹子・日野晶子・大出摩紀・小池由紀 | 4. 巻 12 |
| 2. 論文標題 トランスジェンダーの職場環境とトイレ利用に関する意識と実態 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 GID(性同一性障害)学会雑誌 | 6. 最初と最後の頁 69-76 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 Fujii, Hiromi | 4. 巻 66 |
| 2. 論文標題 Sexual Norms for Lesbian and Bisexual Women in a Culture Where Lesbianism Is Not Acceptable Enough: The Japanese Survey About Sexual Behaviors, STIs Preventive Behaviors, and the Value of Sexual Relations | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 Journal of Homosexuality | 6. 最初と最後の頁 407-420 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/00918369.2017.1413275 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 藤井ひろみ | 4. 巻 59 |
| 2. 論文標題 レズビアンである患者と医療者の相互作用：事例からの検討 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 母性衛生 | 6. 最初と最後の頁 181-188 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 藤井ひろみ | 4. 巻 36 |
| 2. 論文標題 レズビ안의セクシュアリティと健康支援 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 日本性科学会誌 | 6. 最初と最後の頁 11-20 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 石田 仁 | 4. 巻 56(4) |
| 2. 論文標題 ゲイ雑誌：その成り立ちと国立国会図書館の所蔵状況 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 現代の図書館 | 6. 最初と最後の頁 196-204 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------|
| 1. 著者名 石田 仁 | 4. 巻 非該当 |
| 2. 論文標題 人々のトランスジェンダー嫌悪が少なくなれば、ジェンダー平等感覚の形成は進む | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 Wezzy | 6. 最初と最後の頁 非該当 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 石田 仁 | 4. 巻 49 |
| 2. 論文標題 同性婚に対して「伝統的家族の喪失」ならびに「非生殖ゆえ好ましくない」と考える人々の意識を規定する要因は何か：性・年齢層別分析 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 研究所年報（明治学院大学社会学部附属研究所） | 6. 最初と最後の頁 63-74 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|---|--------------------|
| 1. 著者名 岩本健良・平森大規・内藤忍・中野諭 | 4. 巻 5月19日 |
| 2. 論文標題 性的マイノリティの自殺・うつによる社会的損失の試算と非当事者との収入格差に関するサーベイ | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 JILPTディスカッションペーパー | 6. 最初と最後の頁 1-33 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 該当する |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 釜野さおり | 4. 巻 26 |
| 2. 論文標題 性的マイノリティをめぐる量的データ：ダイバーシティ推進の文脈における両義性 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 女性学 | 6. 最初と最後の頁 22-27 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 釜野さおり | 4. 巻 12 |
| 2. 論文標題 家族・ジェンダー・セクシュアリティと社会調査－そのプロセス、課題と今後の展望－ | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 Global-Local Studies | 6. 最初と最後の頁 1-20 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 Saori Kamano and Diana Khor | 4. 巻 V |
| 2. 論文標題 Same-sex Partners and Practices of Familial Intimacy | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 GIS Journal: The Hosei Journal of Global and Interdisciplinary Studies | 6. 最初と最後の頁 19-38 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 釜野さおり | 4. 巻 29(2) |
| 2. 論文標題 同性愛・両性愛についての意識と家族・ジェンダーについての意識の規定要因 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 家族社会学研究 | 6. 最初と最後の頁 200-215 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 藤めぐみ・岩本健良・白井千晶・渡辺大輔 | 4. 巻 83 |
| 2. 論文標題 児童養護施設における性的マイノリティ (LGBT) 児童の対応に関する調査 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 季刊セクシュアリティ ([特集] 子どもに関わるすべてのおとなに必要な性の理解と取り組み) | 6. 最初と最後の頁 82-93 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 岩本健良 | 4. 巻 352 |
| 2. 論文標題 性同一性障害特例法：性別変更要件見直しの必要性と、トランスジェンダーのニーズ | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 ヒューマンライツ | 6. 最初と最後の頁 28-30 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 石田仁 | 4. 巻 668 |
| 2. 論文標題 人々はLGBTをどうとらえているのか：量的調査からみる意識 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 青少年問題 | 6. 最初と最後の頁 10-17 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|----------------------|
| 1. 著者名 藤井ひろみ | 4. 巻 77(2) |
| 2. 論文標題 性自認および性的指向の困難解決に向けた支援マニュアルガイドライン | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 小児保健研究 | 6. 最初と最後の頁 98-101 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------|-------------------|
| 1. 著者名 釜野さおり | 4. 巻 73(1) |
| 2. 論文標題 特集に寄せて | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 人口問題研究 | 6. 最初と最後の頁 1-3 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------|--------------------|
| 1. 著者名 小山泰代 | 4. 巻 73(1) |
| 2. 論文標題 家族関連調査にみる家族と世帯の形 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 人口問題研究 | 6. 最初と最後の頁 4-20 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 山内昌和 | 4. 巻 73(1) |
| 2. 論文標題 日本の夫婦出生力の地域差 2000年代の15の社会調査を用いた45歳以上の有配偶女性の子ども数の分析 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 人口問題研究 | 6. 最初と最後の頁 21-40 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 千年よしみ | 4. 巻 73(1) |
| 2. 論文標題 夫婦の母親との近居が有配偶女性の就業に及ぼす影響 2つの全国レベルの家族調査を用いた比較分析 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 人口問題研究 | 6. 最初と最後の頁 41-57 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 Saori Kamano | 4. 巻 72(2) |
| 2. 論文標題 Common Family Boundaries: Changes and Determinants of Married Women ' s Perception | 5. 発行年 2016年 |
| 3. 雑誌名 人口問題研究 | 6. 最初と最後の頁 53-72 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 千年よしみ | 4. 巻 72(2) |
| 2. 論文標題 女性の就業と母親との近居 第2回・第5回全国家庭動向調査を用いた分析 - | 5. 発行年 2016年 |
| 3. 雑誌名 人口問題研究 | 6. 最初と最後の頁 120-139 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 石田仁 | 4. 巻 206 |
| 2. 論文標題 自治体悉皆調査の設計ならびに回答モードの検討 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 部落解放研究 | 6. 最初と最後の頁 7-26 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 三部倫子 | 4. 巻 41 |
| 2. 論文標題 日本におけるセクシュアル・マイノリティの『家族』研究の動向 2009年以降の文献と実践家向けの資料を中心に | 5. 発行年 2016年 |
| 3. 雑誌名 家族研究年報 | 6. 最初と最後の頁 77-93 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 三部倫子、青山直子、新ヶ江章友 | 4. 巻 11 |
| 2. 論文標題 LGBTとその家族を支える NPOにできることは何か | 5. 発行年 2016年 |
| 3. 雑誌名 大阪市立大学共生社会研究会『共生社会研究』 | 6. 最初と最後の頁 71-93 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 神谷悠介 | 4. 巻 61 |
| 2. 論文標題 ワークライフバランスの視座と射程 多様なカップル関係の視点を取り入れた考察 | 5. 発行年 2016年 |
| 3. 雑誌名 自然・人間・社会 | 6. 最初と最後の頁 75-91 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 平森大規 | 4. 巻 561 |
| 2. 論文標題 性的マイノリティが働きやすい職場とは? 「LGBT職場環境アンケート」の分析結果から | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 労働調査 | 6. 最初と最後の頁 10-14 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 釜野さおり | 4. 巻 503 |
| 2. 論文標題 LGBTの同僚に対する意識 日本初の性的マイノリティについての全国意識調査より | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 ビジネス・レーパー・トレンド | 6. 最初と最後の頁 2 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

[学会発表] 計83件(うち招待講演 31件/うち国際学会 8件)

| |
|--|
| 1. 発表者名 千年よしみ |
| 2. 発表標題 SOGI設問に対する郵送・ウェブ回答の項目無回答率・回答分布の比較 |
| 3. 学会等名 日本人口学会第74回大会(セクシュアリティ人口学の現在とこれから) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 釜野さおり |
| 2. 発表標題 同性カップルと国勢調査 |
| 3. 学会等名 日本人口学会第74回大会(セクシュアリティ人口学の現在とこれから) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 山内昌和 |
| 2. 発表標題 大阪市における性的マイノリティの空間分布 |
| 3. 学会等名 日本人口学会第74回大会(セクシュアリティ人口学の現在とこれから) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 平森大規 |
| 2. 発表標題 SOGIと社会階層 |
| 3. 学会等名 日本人口学会第74回大会(セクシュアリティ人口学の現在とこれから) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 平森大規 |
| 2. 発表標題 アロマンティック/アセクシュアル・スペクトラムの人口学的多様性 |
| 3. 学会等名 日本人口学会第74回大会(セクシュアリティ人口学の現在とこれから) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 釜野さおり・岩本健良 |
| 2. 発表標題 『セクシュアリティの人口学』から、「SOGIと社会的属性」 |
| 3. 学会等名 日本人口学会第74回大会(セクシュアリティ人口学の現在とこれから) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 釜野さおり |
| 2. 発表標題 性的マイノリティの存在の認識・身近な性的マイノリティに対する嫌悪感 |
| 3. 学会等名 性的マイノリティについての意識：2019年（第2回）全国調査 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 石田仁 |
| 2. 発表標題 同性婚 |
| 3. 学会等名 性的マイノリティについての意識：2019年（第2回）全国調査 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|-----------------------------|
| 1. 発表者名 石田仁 |
| 2. 発表標題 中高年の同性婚に対する意識 |
| 3. 学会等名 日本社会学会第93回大会自由報告 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 石田仁・牧村朝子 |
| 2. 発表標題 性の多様性 |
| 3. 学会等名 静岡市女性会館男女共同参画事業：宅コスして真面目に学ぶ多様な性のコト |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 日野晶子・高橋未樹子・岩本健良 |
| 2. 発表標題 誰もが利用しやすいトイレについて、性の多様性の視点から考える |
| 3. 学会等名 環境工学研究会公開セミナー |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 岩本健良・釜野さおり |
| 2. 発表標題 LGBTのジェンダー・家族・性的マイノリティについての意識 異性愛者・シスジェンダーとの比較を中心に（セクシュアリティの人口学7） |
| 3. 学会等名 第624回人口学研究会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---------------------------------------|
| 1. 発表者名 岩本健良 |
| 2. 発表標題 性的指向・性自認をめぐる「正統的」知識と偏見の再生産 |
| 3. 学会等名 第93回日本社会学会大会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 高橋未樹子・日野晶子・大出摩紀・岩本健良 |
| 2. 発表標題 男女共用トイレの配置計画に関する意識調査(オフィストイレのオールジェンダー利用に関する研究（その6）) |
| 3. 学会等名 2020年度日本建築学会大会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 日野晶子・高橋未樹子・岩本健良・大出摩紀 |
| 2. 発表標題 オフィスにおける男女共用トイレの利用意向とあり方(オフィストイレのオールジェンダー利用に関する研究 (その5)) |
| 3. 学会等名 2020年度日本建築学会大会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 岩本健良 |
| 2. 発表標題 日本社会における性の多様性への認識の変化 正統的文化資本としての教科書・辞典を手がかりとして |
| 3. 学会等名 日本教育社会学会第72回大会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 岩本健良 |
| 2. 発表標題 SOGIと学校：いじめの悪影響は大人になっても残るのか？ |
| 3. 学会等名 自治体における無作為抽出による市民対象調査でSOGIをどのように扱うか 大阪市での実践を事例とした報告会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 山内昌和 |
| 2. 発表標題 山内昌和 |
| 3. 学会等名 自治体における無作為抽出による市民対象調査でSOGIをどのように扱うか 大阪市での実践を事例とした報告会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 藤井ひろみ |
| 2. 発表標題 近年の自治体による無作為抽出の市民対象SOGI関連調査の傾向 |
| 3. 学会等名 自治体における無作為抽出による市民対象調査でSOGIをどのように扱うか 大阪市での実践を事例とした報告会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 藤井ひろみ・布施香奈・釜野さおり |
| 2. 発表標題 シスジェンダーのレズビアン・バイセクシュアル女性の家族形成ニーズは？ |
| 3. 学会等名 自治体における無作為抽出による市民対象調査でSOGIをどのように扱うか 大阪市での実践を事例とした報告会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 千年よしみ |
| 2. 発表標題 千年よしみ |
| 3. 学会等名 自治体における無作為抽出による市民対象調査でSOGIをどのように扱うか 大阪市での実践を事例とした報告会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 釜野さおり・平森大規 |
| 2. 発表標題 SOGIの聞き方 |
| 3. 学会等名 自治体における無作為抽出による市民対象調査でSOGIをどのように扱うか 大阪市での実践を事例とした報告会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 釜野さおり |
| 2. 発表標題 調査の概要 |
| 3. 学会等名 自治体における無作為抽出による市民対象調査でSOGIをどのように扱うか 大阪市での実践を事例とした報告会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 釜野さおり・平森大規・岩本健良 |
| 2. 発表標題 調査票調査で性的指向・性自認を捉える?SOGI設問の試験的調査に基づく考察 |
| 3. 学会等名 日本行動計量学会第48回大会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 釜野さおり・平森大規 |
| 2. 発表標題 性的指向と性自認のあり方を社会調査でいかに捉えるか 大阪市民調査に向けた準備調査における項目の検討と本調査の結果 |
| 3. 学会等名 第92回日本社会学会大会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 HIRAMORI Daiki, and KAMANO Saori |
| 2. 発表標題 Measuring Sexual Orientation and Gender Identity on Surveys in Japan: Methods and Epistemologies |
| 3. 学会等名 German Institute for Japanese Studies Social Science Study Group (Online Presentation) (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 HIRAMORI Daiki, KAMANO Saori, and IWAMOTO Takeyoshi |
| 2. 発表標題 Are All of the 'Undecided' Sexual/Gender Minorities? : A Queer Demographic Analysis of an Experimental Study to Improve SOGI Question |
| 3. 学会等名 Annual Meeting of the Population Association of America (Online Presentation) (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 釜野さおり |
| 2. 発表標題 LGBTと統計：統計調査の読み方、使い方 |
| 3. 学会等名 中央大学LGBT連続公開講座『LGBTをめぐる社会の諸相』（招待講演） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 釜野さおり |
| 2. 発表標題 セクシュアリティの基礎知識：諸外国の統計から |
| 3. 学会等名 セクシュアル・マイノリティ支援者養成研修講座《基礎編（招待講演） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 釜野さおり |
| 2. 発表標題 LGBTの現状と課題：家族支援を視野に入れて |
| 3. 学会等名 NPO法人日本家族カウンセリング協会夏期研修会（招待講演） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 釜野さおり・岩本健良 |
| 2. 発表標題 LGBT人口の基本的属性(セクシュアリティの人口学 6) |
| 3. 学会等名 人口学研究会 第622回例会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 釜野さおり・石田仁・岩本健良・小山泰代・千年よしみ・平森大規・藤井ひろみ・布施香奈・山内昌和・吉仲崇 |
| 2. 発表標題 大阪市における無作為抽出調査からみたセクシュアル・マイノリティのメンタルヘルス |
| 3. 学会等名 セクシュアルマイノリティと医療・福祉・教育を考える全国大会2020 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 釜野さおり・平森大規 |
| 2. 発表標題 性的指向と性自認のあり方を社会調査でいかに捉えるか 大阪市民調査に向けた準備調査における項目の検討と本調査の結果 |
| 3. 学会等名 第92回日本社会学会大会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 釜野さおり・北仲千里・藤原直子 |
| 2. 発表標題 性的マイノリティのパートナーからの暴力(DV)被害と相談行動に関する調査ー第一次集計分析ー |
| 3. 学会等名 2019年度日本女性学会大会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 石田仁 |
| 2. 発表標題 ブルーボーイ裁判はどのように歴史語りされ何が語られなかったか |
| 3. 学会等名 中央大学LGBT連続講座「LGBTと歴史：LGBTをめぐる歴史を振り返ることで何が見えてくるのか」（招待講演） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 石田仁・岩本健良・釜野さおり |
| 2. 発表標題 同性婚に関する意識調査結果 速報 |
| 3. 学会等名 結婚の自由をすべての人に（Marriage for All Japan）一周年記念行事（招待講演） |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 岩本健良 |
| 2. 発表標題 トランスジェンダーの割合をどう測るか：「大阪市民調査」と「オフィストイレのオールジェンダー利用に関する意識調査」から |
| 3. 学会等名 第92回日本社会学会大会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 岩本健良 |
| 2. 発表標題 トランスジェンダーの職場環境、トイレ利用に関する意識と実態 |
| 3. 学会等名 セクシュアルマイノリティと医療・福祉・教育を考える全国大会2020 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 IWAMOTO, Takeyoshi |
| 2. 発表標題 How School Textbook Explain LGBT and SOGI in Japan?: The Effects of the Censorship System and Social Movements |
| 3. 学会等名 Symposium on Frontiers of Gender Studies(ジェンダー学の最前線(招待講演)(国際学会)) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 藤井ひろみ・布施香奈 |
| 2. 発表標題 「大阪市民の暮らしと働き方の多様性と共生にかんするアンケート」からみた女性同性カップルの家族形成支援ニーズ |
| 3. 学会等名 第60回日本母性衛生学会学術集会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 岩本健良 |
| 2. 発表標題 LGBT差別による社会的損失：自殺・うつによる社会的損失推計の試み |
| 3. 学会等名 関西社会学会第69回大会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 岩本健良 |
| 2. 発表標題 LGBT差別による社会的損失：自殺・うつによる社会的損失推計の試み |
| 3. 学会等名 日本社会学会大会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 岩本健良 |
| 2. 発表標題 トランスジェンダーの職場環境とトイレ利用に関する意識と実態（その2） |
| 3. 学会等名 GID（性同一性障害）学会 第20回研究大会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 岩本健良 |
| 2. 発表標題 学校教科書での性的マイノリティの取り扱いについて |
| 3. 学会等名 GID（性同一性障害）学会 第20回研究大会（招待講演） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 高橋未樹子・日野晶子・岩本健良・大出摩紀・小池由紀 |
| 2. 発表標題 オフィストイレのオールジェンダー利用に関する研究（その1） |
| 3. 学会等名 2018年度日本建築学会大会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 日野晶子・高橋未樹子・岩本健良・大出摩紀・小池由紀 |
| 2. 発表標題 オフィストイレのオールジェンダー利用に関する研究（その2） |
| 3. 学会等名 2018年度日本建築学会大会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 釜野さおり |
| 2. 発表標題 性的マイノリティをめぐる量的データ：ダイバーシティ推進の文脈における両義性 |
| 3. 学会等名 日本女性学会2018年度大会シンポジウム（招待講演） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 釜野さおり |
| 2. 発表標題 家族・ジェンダー・セクシュアリティと社会調査?そのプロセス、課題と今後の展望? |
| 3. 学会等名 2018年度公開特別講演会・神戸女子大学グローバル・ローカル研究会（招待講演） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 釜野さおり |
| 2. 発表標題 Negotiating Heteronormativity: Non-Heterosexual Daughters' Practicing Familial Intimacies |
| 3. 学会等名 Practices of Familial Intimacy: A Focus on Mother-Daughter Relationships (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|------------------------------------|
| 1. 発表者名 釜野さおり |
| 2. 発表標題 「LGBT」についての課題：基礎知識と研究動向 |
| 3. 学会等名 厚生労働省院内勉強会「二水会」（招待講演） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 釜野さおり |
| 2. 発表標題 LGBTと職場環境に関するWebアンケート調査 niji voice 2018: コメントと話題提供 |
| 3. 学会等名 ~LGBTも働きやすい職場づくり、生きやすい社会づくりのための『声』集め~報告会(招待講演) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 釜野さおり |
| 2. 発表標題 セクシュアリティの基礎知識: ジェンダーとセクシュアリティを理解する |
| 3. 学会等名 セクシュアル・マイノリティ支援者養成研修講座《基礎編》(招待講演) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Saori Kamano, Yusuke Kamiya, Ikuko Sugiura & Hiroyuki Taniguchi |
| 2. 発表標題 Experiences of and Ideas on Same-Sex Partnership Certificate in Shibuya-Ward, Tokyo |
| 3. 学会等名 XIX ISA World Congress of Sociology (International Sociological Association) (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Diana Khor and Saori Kamano |
| 2. 発表標題 Same-Sex Partners and Practices of Familial Research |
| 3. 学会等名 XIX ISA World Congress of Sociology (International Sociological Association) (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|-------------------------------|
| 1. 発表者名 石田仁 |
| 2. 発表標題 同性婚法制化の賛否に関する多変量解析 |
| 3. 学会等名 日本女性学会2017年度大会 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--------------------------------|
| 1. 発表者名 石田仁 |
| 2. 発表標題 性的少数者と雇用上の配慮について |
| 3. 学会等名 アノテーション株式会社研修（招待講演） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 岩本健良 |
| 2. 発表標題 国勢調査による同性カップル集計をめぐる動向 - 日米比較からみたマイノリティの統計的可視化の意義 - |
| 3. 学会等名 2017年度統計関連学会連合大会 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 岩本健良 |
| 2. 発表標題 トランスジェンダーの職場環境とトイレ利用に関する意識と実態 |
| 3. 学会等名 GID（性同一性障害）学会第20回研究大会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|-----------------------------------|
| 1. 発表者名 釜野さおり |
| 2. 発表標題 ジェンダー意識と性的マイノリティに対する意識 |
| 3. 学会等名 日本女性学会2017年度大会 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 釜野さおり |
| 2. 発表標題 セクシュアル・マイノリティのおかれた状況：基礎知識と研究動向 |
| 3. 学会等名 松下政経塾9月合宿（招待講演） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 FUJII, Hiromi |
| 2. 発表標題 The experiences of transgender nurses in caring |
| 3. 学会等名 TNMC & WANS International Nursing Research Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 藤井ひろみ, 中田ひとみ, 蘭由岐子, 平田恭子, 石田絵美子, 松葉祥一 |
| 2. 発表標題 性別越境する看護学生にとっての「看護師になる」経験 |
| 3. 学会等名 GID(性同一性障害)学会研究大会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 岩本健良 |
| 2. 発表標題 計量調査によるセクシュアル・マイノリティの現状把握への期待と課題 NHK「LGBT当事者アンケート」と「国勢調査」から見えるもの |
| 3. 学会等名 日本人口学会（招待講演） |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 平森大規 |
| 2. 発表標題 計量研究におけるクィア・フェミニスト方法論の可能性 「LGBT職場環境アンケート 2015」の分析結果から |
| 3. 学会等名 日本人口学会（招待講演） |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|---------------------------------|
| 1. 発表者名 藤井ひろみ |
| 2. 発表標題 セクシュアル・マイノリティと「家族計画」 |
| 3. 学会等名 日本人口学会（招待講演） |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 石田仁 |
| 2. 発表標題 戦後日本における「ホモ人口」の成立と「ホモ」の脅威化 男性同性愛に関する雑誌記事の言説分析 |
| 3. 学会等名 日本人口学会（招待講演） |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 釜野さおり |
| 2. 発表標題 性的指向と性自認 (SOGI) を視野に入れた人口学的研究のこれから |
| 3. 学会等名 日本人口学会 (招待講演) |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 岩本健良 |
| 2. 発表標題 自治体行政の総合的視点から - 教員採用試験適性検査の見直しの必要性を中心に |
| 3. 学会等名 日本学術会議公開シンポジウム 教育におけるLGBTIの権利保障 (招待講演) |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|---------------------------------|
| 1. 発表者名 釜野さおり |
| 2. 発表標題 " LGBT " データの読み方活かし方 |
| 3. 学会等名 調査報告会 (招待講演) |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 平森大規 |
| 2. 発表標題 Social-Institutional Structures That Matter: An Exploratory Analysis of Sexual/Gender Minority Status and Income in Japan |
| 3. 学会等名 R-Weeks 2016 研究成果発表会 (招待講演) |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 村木真紀・平森大規 |
| 2. 発表標題 LGBT職場環境アンケート報告会 データを職場環境改善のチカラに in Tokyo 2016 |
| 3. 学会等名 武蔵野市男女共同参画フォーラム2016（招待講演） |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名 石田仁 |
| 2. 発表標題 職場の性的ダイバーシティを阻害する要因 |
| 3. 学会等名 武蔵野市男女共同参画フォーラム2016（招待講演） |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|---------------------------------------|
| 1. 発表者名 石田仁 |
| 2. 発表標題 同性婚（同性同士の結婚を法で認めること）に関する分析 |
| 3. 学会等名 性的マイノリティの理解を進める愛媛大会 |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|------------------------------------|
| 1. 発表者名 釜野さおり |
| 2. 発表標題 性的マイノリティはどのように捉えられているのか |
| 3. 学会等名 性的マイノリティの理解を進める愛媛大会 |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Daiki Hiramori |
| 2. 発表標題 Sexual and Gender Minorities in the Workplace in Japan: Persistence of Labor Market Inequality |
| 3. 学会等名 American Sociological Association Annual Meeting 2016 (国際学会) |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 釜野さおり |
| 2. 発表標題 同性愛(者)に対する意識とジェンダー・家族に関する意識との関連性：2015年全国調査データを用いた分析 |
| 3. 学会等名 日本家族社会学会大会 |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 石田仁 |
| 2. 発表標題 ゲイはどのように描かれてきたか：戦後の雑誌分析から見るゲイの表象 |
| 3. 学会等名 特定非営利活動法人レインボー・アクション第4回トークライブ(招待講演) |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|---------------------------------------|
| 1. 発表者名 釜野さおり |
| 2. 発表標題 基調講演：LGBT施策の背景と効果 |
| 3. 学会等名 Work with Pride 2016(招待講演) |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 山内昌和 |
| 2. 発表標題 日本の夫婦出生力の地域差 2000年代の15の統計調査を用いた45～64歳有配偶女性の子ども数の分析 |
| 3. 学会等名 人文地理学会大会 |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|---------------------------------------|
| 1. 発表者名 藤井ひろみ |
| 2. 発表標題 医療の現場とLGBT当事者~それぞれが知らないこと~ |
| 3. 学会等名 淀川区LGBT講演会（招待講演） |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 岩本健良 |
| 2. 発表標題 LGBTと教育の現状と課題～教員採用試験適性検査の問題を中心に～ |
| 3. 学会等名 国際ジェンダー学会教育部会研究会（招待講演） |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 藤井ひろみ |
| 2. 発表標題 看護者に必要なセクシュアルマイノリティの現状と支援ー国内外の先駆的調査からみた健康教育・看護ケア |
| 3. 学会等名 金沢大学講演会（招待講演） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 釜野さおり |
| 2. 発表標題 データからみるLGBT 2015年全国意識調査を中心として |
| 3. 学会等名 ココロンセミナー（招待講演） |
| 4. 発表年 2017年 |

〔図書〕 計20件

| | |
|-------------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 釜野さおり | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 勁草書房 | 5. 総ページ数 256 |
| 3. 書名 若者の性の現在地（林雄亮，石川由香里，加藤秀一編著） | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 釜野さおり | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 晃洋書房 | 5. 総ページ数 252 |
| 3. 書名 クエア・スタディーズをひらく2（菊地夏野，堀江有里，飯野由里子編著） | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 釜野さおり | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 慶應義塾大学出版会 | 5. 総ページ数 288 |
| 3. 書名 ワーク・ファミリー・バランス これからの家族と共働き社会を考える（高橋美恵子編著） | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 石田仁 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 日本評論社 | 5. 総ページ数 240 |
| 3. 書名 クィアと法：性規範の解放／開放のために（綾部六郎・池田弘乃編著） | |

| | |
|--------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 石田仁 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 青土社 | 5. 総ページ数 304 |
| 3. 書名 BLが開く扉（ジェイムズ・ウェルカー編著） | |

| | |
|---------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 石田仁 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 学文社 | 5. 総ページ数 192 |
| 3. 書名 LGBTのひろば：ゲイの出会い編 | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 藤井ひろみ | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 かもがわ出版 | 5. 総ページ数 160 |
| 3. 書名 日本と世界のLGBTの現状と課題-SOGIと人権を考える（LGBT法連合会編） | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 藤井ひろみ | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 大月書店 | 5. 総ページ数 184 |
| 3. 書名 はじめよう! SOGIハラのない学校・職場づくり(「なくそう」SOGIハラ実行委員会編) | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 藤井ひろみ | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 メディカ出版 | 5. 総ページ数 352 |
| 3. 書名 ナーシング・グラフィカ別巻疾患と看護(9)女性生殖器(渡邊浩子編) | |

| | |
|--------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 藤井ひろみ | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 ペリかん出版 | 5. 総ページ数 153 |
| 3. 書名 大人になる前に知るノ性のこと(加納直美編) | |

| | |
|--------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 藤井ひろみ | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 医歯薬出版 | 5. 総ページ数 213 |
| 3. 書名 母性看護学I概論(有森直子編) | |

| | |
|--------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 石田仁 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 ナツメ社 | 5. 総ページ数 264 |
| 3. 書名 はじめて学ぶLGBT：基礎からトレンドまで | |

| | |
|---|--------------------------------|
| 1. 著者名 Khor, Diana, Denise Tse-Shang Tang and Saori Kamano | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 Oxford University Press | 5. 総ページ数 Online publication |
| 3. 書名 Oxford Handbook on Global LGBT and Sexual Diversity Politics | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 岩本健良, 他 | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 学文社 | 5. 総ページ数 200 |
| 3. 書名 ダイバーシティ時代の教育の原理：多様性と新たなつながりの地平へ | |

| | |
|---------------------|-----------------|
| 1. 著者名 石田仁 | 4. 発行年 2017年 |
| 2. 出版社 法律文化社 | 5. 総ページ数 184 |
| 3. 書名 セクシュアリティと法 | |

| | |
|---------------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 岩本健良 | 4. 発行年 2017年 |
| 2. 出版社 青弓社 | 5. 総ページ数 310 |
| 3. 書名 教育とLGBTIをつなぐ ~学校・大学の現場から考える~ | |

| | |
|---------------------|-----------------|
| 1. 著者名 岩本健良 | 4. 発行年 2017年 |
| 2. 出版社 学文社 | 5. 総ページ数 200 |
| 3. 書名 教育社会とジェンダー | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 CHITOSE, Yoshimi | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 Palgrave | 5. 総ページ数 222 |
| 3. 書名 Gender, Care and Migration in East Asia. Series in Asian Labor and Welfare Policies | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 釜野さおり (杉浦郁子・野宮亜紀・大江千束 編) | 4. 発行年 2016年 |
| 2. 出版社 緑風出版 | 5. 総ページ数 249 |
| 3. 書名 「Q6 結婚する人は減っているのでしょうか？実態について教えてください」「Q22 スウェーデンのパートナーシップ制度について詳しく教えてください」『プロブレムQ&A パートナーシップ・生活と制度 [結婚、事実婚、同性婚] 増補改訂版』 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 三部倫子 (永田夏来・松木洋人 編) | 4. 発行年 2017年 |
| 2. 出版社 新泉社 | 5. 総ページ数 236 |
| 3. 書名 『セクシュアル・マイノリティにとっての子育て』 『入門 家族社会学』 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

| |
|---|
| <p>大阪市民の働き方と暮らしの多様性と共生にかんするアンケート https://osaka-chosa.jp 性的指向と性自認の人口学 - 日本における研究基盤の構築 http://www.ipss.go.jp/projects/j/SOG1/index.asp 大阪市民の働き方と暮らしの多様性と共生にかんするアンケート http://www.osaka-chosa.jp/ 性的指向と性自認の人口学 - 日本における研究基盤の構築 http://www.ipss.go.jp/projects/j/SOG1/index.asp</p> |
|---|

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---|---|----|
| 研究分担者 | 小山 泰代 (Koyama Yasuyo) (70415826) | 国立社会保障・人口問題研究所・人口構造研究部・第3室長 (82628) | |
| 研究分担者 | 千年 よしみ (Chitose Yoshimi) (00344242) | 国立社会保障・人口問題研究所・国際関係部・第1室長 (82628) | |
| 研究分担者 | 布施 香奈 (Fuse Kana) (10713480) | 国立社会保障・人口問題研究所・情報調査分析部・主任研究官 (82628) | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|---|----|
| 研究分担者 | 石田 仁 (Ishida Hitoshi) (40601810) | 明治学院大学・社会学部・研究員 (32683) | |
| 研究分担者 | 岩本 健良 (Iwamoto Takeyoshi) (50211066) | 金沢大学・人間科学系・准教授 (13301) | |
| 研究分担者 | 藤井 ひろみ (Fujii Hiromi) (50453147) | 大手前大学・現代社会学部・教授 (34503) | |
| 研究分担者 | 山内 昌和 (Yamauchi Masakazu) (90415828) | 早稲田大学・教育・総合科学学術院・准教授 (32689) | |

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---------------------------------|-----------------------|----|
| 研究協力者 | 平森 大規 (Hiramori Daiki) | | |
| 研究協力者 | 三部 倫子 (Sambe Michiko) | | |
| 研究協力者 | 吉仲 崇 (Yoshinaka Takashi) | | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|-------------------------------|-----------------------|----|
| 研究協力者 | コー ダイアナ (Khor Diana) | | |
| 研究協力者 | 神谷 悠介 (Kamiya Yusuke) | | |
| 研究協力者 | 三宅 大二郎 (Miyake Daijiro) | | |
| 研究協力者 | 谷口 洋幸 (Taniguchi Hiroyuki) | | |
| 研究協力者 | 杉浦 郁子 (Sugiura Ikuko) | | |
| 研究協力者 | 石井 太 (Ishii Futoshi) | | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| | |
|---------|---------|
| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|